

現代女性とキャリア連携専攻の昨年度報告および本年度の状況と展望

多屋 淑子

1. はじめに

現代女性とキャリア連携専攻は、現代社会に生きる女性の生き方や働き方を学修することにより、大学卒業後に、就職、結婚、出産、育児、介護や老後等の多様なライフコースにおいて、生き生きと充実した人生設計ができるように、幅広い知識や思考力および実践力の獲得を支援することを目指している。本専攻は、2008年度の入学より履修登録が開始され、2013年4月には6年目がスタートするに至っている。

2. 履修状況

現代女性とキャリア連携専攻のカリキュラムは、コア科目と3領域の選択科目群から構成され、指定された単位数を修得することにより、卒業時に修了書が発行される。今までに発行された修了書の数には表-1に示すとおりである。2012年度は、前年度に比べ、修了書の発行数が減少している。

表-1 修了書発行数

学 部	年 度		2011	2012
	学 科			
家 政 学 部	児 童		0	4
	食 物		0	0
	住 居		0	0
	被 服		3	1
	家 政 経 済		8	0
	小 計		11	5
文 学 部	日 本 文 学		14	3
	英 文		0	2
	史		4	4
	小 計		18	9
理 学 部	数 物 科 学		1	0
	物 質 生 物 科 学		8	2
	小 計		9	2
計			38	16

次に、表-2に、コア科目の履修者数の変遷を示す。ここで、科目名に※が付記されている科目は後期の開講科目であることから、2013年度の履修者数は5月現在では未確定であるが、履修者数の合計の変遷を見ると、コア科目の履修者数は、年々減少の傾向を

示している。2012年度の委員会では、この原因を、上限単位数の厳正化とGPA制度の導入による履修上の問題、ならびに、本専攻の周知度の低さにあると分析し〔倉田2012：155〕、周知度を高めるための対策として、2011年度に引き続き専用のリーフレットを作成して、その配布方法に工夫を行った。具体的には、2013年4月の各学科の履修ガイダンス時に、説明を加えてリーフレットの配布を試みたが、表－2に示すとおり、昨年度に比べて履修者数が増加した科目は1科目にとどまる結果となった。このように、現代女性とキャリア連携専攻の現況は、修了書の申請数が低下し、コア科目の履修者数も減少しているという状況にある。

表－2 コア科目の履修者数の変遷

年 度 コア科目 (※後期科目)	2009	2010	2011	2012	2013
現 代 女 性 論*	106	55	87	69	50
現 代 男 性 論	62	120	96	78	73
日 本 の 女 性 史*	49	195	67	106	98
世 界 の 女 性 史	42	74	49	35	27
女 性 と 身 体*	20	24	18	20	33
女 性 と 職 業	107	47	68	46	39
計	386	515	385	354	320

3. 「女性と職業」について

表－3に、「女性と職業」の2013年度のゲストスピーカーについて紹介する。この科目は、各学科の卒業生をゲストスピーカーとして招き、女性の職業の実態を具体例として提示する講義が展開されている。この授業を通して、学生は、さまざまな分野の先人の仕事のあり方を実際に見聞し、働く意欲と勇気を得ることができるようである。

表－3 「女性と職業」2013年度のゲストスピーカー

学 科	業種 / 職種 (卒業・修了年)
数物科学科	製造業 / 研究職 (2003年卒)
物質生物科	マスコミ / フリーランス (1992年卒)
児童学科	小学校 / 教員 (2002年卒)
食物学科	保育園 / 園長 (1998年修士修了)
住居学科	製造業 / 研究所長 (1998年卒)
被服学科	製造業 / マーケティング (1995年卒)
家政経済学科	金融業 / 営業職 (2003年卒)
日本文学科	博物館 / 学芸員 (1991年卒)
英文学科	中学・高等学校 / 教員 (2005年博士課程前期修了)
史学科	サービス業 / 準総合職 (2012年卒)

4. 課題

本専攻の履修者が減少する理由として、開講当時の 2008 年度と比べて、現在では、履修環境が大きく異なっていることが挙げられる。すなわち、学生が履修登録を行う際の状況を鑑みると、履修登録上限単位数の順守、学科による卒業要件単位に含まれる自由選択科目の単位数の縮小、学科のディプロマ・ポリシー（学位授与方針）を念頭に置いた指導方針の推進、さらに、GPA 制度の導入により、学科科目以外の科目を選択する自由度が少なくなっているという現実がある。したがって、現代女性とキャリア連携専攻が、今後も、本学のキャリア教育の充実に寄与していくためには、本専攻の努力だけでは解決できない大きな問題がある。キャリア教育を推進するためのカリキュラムの見直しも必要であり、同時に、それらの科目を現実に学生が履修できる環境の整備が必要である。

目白キャンパスでは、キャリア教育関係として、現代女性とキャリア連携専攻とキャリア形成科目がある。2012 年度の現代女性とキャリア連携専攻委員会において、現代女性とキャリア連携専攻科目とキャリア形成科目で提供されている科目の内容に重複があるという指摘があり、その解決方法を探ることが 2013 年度の委員会の検討課題となっている。また、学生（特に 1 年次生）が履修選択を行う際に、両者の違いを明確に理解することが困難であることも解決すべき項目として挙げられている。具体的には、キャリア関係の科目の履修に関心があるが、履修便覧やリーフレットを読んでも両者の違いが曖昧で明確に把握できない、提供科目のシラバスの内容が同様であり、どちらの科目を選択したらよいかわからない、副専攻とは何かわからない、修了書の効力がどの程度であるか等々、多くの質問が寄せられている。

このような状況から、目白キャンパスのキャリア教育をより充実させるために、2013 年度は本専攻の委員会とキャリア形成科目委員会と両方で話し合いの場を持つ予定である。

参考文献

倉田宏子：2012, 「現代女性とキャリア連携専攻の概況」『現代女性とキャリア』第 4 号, pp.155-156.

（たや よしこ 家政学部被服学科教授 現代女性とキャリア連携専攻委員長）